

福井の戦国 歴史秘話

<創刊号>

平成29年2月28日発行

猛将、柴田勝家の亡霊は、北の庄創成の神！

現在の福井城址の南500mに位置するもう一つの城跡、北の庄城址。創刊号は、ここを居城とし、主君、織田信長の安土城と並ぶ豪壮雄大な城郭、北の庄城を築いた柴田勝家を取り上げます。

柴田勝家は、織田信長の有力な家臣として知られ、越前国を治めた人物です。信長の妹お市と結婚しますが、賤ヶ岳（滋賀県）の戦いで羽柴秀吉に敗れ、天正11（1583）年4月24日、北の庄城に火を放ち、お市の方とともに自害。壮麗な城は灰燼に帰しました。



柴田勝家像
（「国史画帖大和桜」所載）

柴田勝家の命日に関し、いつ頃からか、こんな伝説が語り継がれるようになりました。毎年、4月24日の夜になると、北の庄城本丸跡周辺から福井市内を流れる足羽川に架かる九十九橋（つくもぼし）にかけて、首無し武者の一隊が行進したというのです。数百騎ものひづめの音が橋を渡って南へと進み、そして翌朝になると、決まって城下に数人の死者が出たといいます。いずれも口から少し血を吐き、まったく死因のわからない、いわゆる変死・怪死の類だったと伝えられています。勝家家臣団亡霊の行列と信じた福井城下の人々は、命日には、夕刻以降、町中全て戸締まりをして、誰も外に出なかったといいます。

この伝説は、柴田勝家が崇霊として認知され、畏怖されていたことを示すものです。勝家は、かつての国主、朝倉氏とその家臣団を滅ぼしたほか、北陸総鎮守の気比神宮を焼き払い、社家衆のほとんどを滅亡させるなど、恐怖の所業を重ねてきました。人々は、死後も畏怖の存在として、鎮魂の願いを持ち続けていたのでしょう。

日本には、スサノオノミコトの祇園信仰や菅原道真の天神信仰など、崇神の霊を鎮め奉ることによって幸福を願う信仰が古くからありますが、勝家もまた、その霊を鎮めようと北の庄城址に現在の柴田神社の前身が建立され、祀られたのです。

一方、伝説の首なし武者行列の正体は、実は、柴田家の旧臣であったという言伝えもあります。旧臣は、普段は領民として城下に暮らし、お家再興の決意を新たにすため、毎年、甲冑姿で騎乗し行進したということです。その際の黒い覆面が首なしの正体だったということです。

伝説とともに語り継がれる猛将、柴田勝家。今でも、北の庄創成の神として、崇められているのです。
<参考資料> 『越前若狭の伝説』

～戦国ふくい歴史紀行～ [北の庄城址・柴田公園]

・北の庄城の遺構の上に整備された北の庄城址・柴田公園。園内には、勝家公、お市の方の銅像のほか、勝家公の子孫であるとされる日本画家、平山郁夫氏揮毫による記念碑も設置されています。隣地には、勝家公、お市の方を合祀する柴田神社が整備されています。

【住所】福井市中央1-21-17（JR福井駅西口から徒歩5分）



北の庄城址・柴田公園

★お知らせ 春の一大イベント「ふくい春まつり」を開催！

- ・平成29年3月25日（土）～4月24日（月）に、福井市内各所で歴史・文化・食のおもてなしイベントを開催。
- ・4月15日（土）は、越前時代行列。柴田勝家やお市の方など福井の歴史を彩った戦国の勇士や姫たちが、華やかな時代絵巻を繰り広げます。柴田勝家役は布施博さん、お市の方役は相田翔子さん。ぜひお越しください！

【お問合せ先】ふくい春まつり実行委員会 0776-20-5346